

漢方的な考え方を医療に

第6回21世紀漢方フォーラム

3月17日(水)に慶應義塾大学医学部・北里講堂で開催された第6回21世紀漢方フォーラムでは、「漢方を活用した医療」①インフルエンザ治療薬として漢方薬を積極的に利用した場合の医療費削減効果、②薬は「農家の転作により、生薬原料の国内生産を増やすための条件」を検討し経済性を試算するという研究発表を、慶應義塾大学医学部・学生チームが行った(前号で詳細)。今号では、その後に行われたパネルディスカッションをお伝えしよう。

◆漢方・鍼灸を活用した日本型医療のための提言』を踏まえた今後の対応
黒岩 5つの提言(①

あるのかという点、超高齢社会を迎えた日本の医療には漢方的な発想が必要だから。しかし漢方は、一人一人の病態や体質・体調の「証」と照合させるので、「エビデンス(治療効果の科学的根拠)が取りにくい。そこでデータマイニングの手法で証のデータを集積し解析すれば、東西医学を融合した医療が可能になる」との結論に達した。提言①はこれに端を発した



左から、黒岩、鈴木、ト、ス、リ、バ、ネ、の、上、の、壇、渡、

が、結論として、は専門医や指導員の人材育成や、医師国家試験に漢方を入れるなどの基盤整備の必要性を考察し提唱した。提言②では、生薬への転作や、植物工場、バイオ技術の活用などの必要があることや、現

いエビデンスの創出が可能となる。医師と患者間の障壁となつてくる医療情報も、ITなど新しい情報技術を駆使し、双方が共有可能な情報のプラットフォーム作りができると考えている。

◆副作用に個人差があるのになぜ同じ抗がん剤? 「自分に合う」を探して出会った漢方薬との併用バックレイ 08年6月に乳がんの手術を受けた。抗がん剤の副作用がほとんど酷くなつていったが、果たして抗がん剤が本当に効いているのかを医師に尋ねると、「副作用には個人差があり何とも言えない」という返答だった。個人差があるのに、がんのグレードや治療の年数に応じてみな同じ治療が行われていることに疑問を感じた。副作用は毎日飛び石のように体の箇所も症状も変化していった。それに伴って薬が処方されるが、すでにステロイド剤、胃薬、鎮痛剤も服用しているため、体が薬でいっぱいになり皮膚が老化した。がんと打ち負かすためとはいえ、自分の体の良い細胞まで殺されてしまつてくる不安感が大きくなり、「自分に合った治療が必要なのは」と考え

るようになった。そんな中、漢方薬や鍼灸を使って抗がん剤の副作用を軽減するとう資料を目にした。主治医に相談したところ渡辺医師を紹介された。抗がん剤と漢方薬を併用し、約3週間後には副作用の軽減を実感。まさにこれを探していた。

この問診システムは、情報が見えられ、前回の差が確認できる。がんの罹患で、パニック状態に陥っているときに医師から短時間で大量に情報を伝えられても頭に入らなかつたが、この問診システムがあつたことで情報が頭の中で順番に積み重なり消化できたことは、私にとって一番有効だった。

◆解析の高速化で進展するゲノムによる個別医療
井元 90年代前半から03年にかけて国際ヒトゲノム計画によりヒトゲノムが決定した。当時は一人のゲノム解析に13年間かかり、費用も700億円。個々のゲノムから情報を抽出する研究には、時間とコストがかかりすぎていた。しかし、3年ほど前に技術革新が起き、高速シーケンサーにより一人のゲノムを2〜3日で決定できるようになった。アメリカはゲノム情報をベースとした

個別化医療を国として進めていく意思を示した。◆人類史上初の方程式鈴木 データマイニングが極めて有効なことが明らかとなり嬉しく思う。西洋医学では平均値を取り、その平均値にあつた処方をしてきたが、平均値にない人は効果を得られにくい。

これからの医療は百万人に百万通りある人間の個別性に即したあり方を目指している。データマイニングでは大量に集積したデータをコンピューターが自動的に仮説設定し、系統的にランダムに計算することで相関関係がある程度分かってくる。

一方、ベジックなゲノム情報は個別的にオリジナルに存在しているが環境要因によって体の状態は変容し、それが病気に傾くこともある。そうした病態の指標となるバイオマーカーには、前提条件となる方程式が存在する。血液検査データなどのマーカーは、複雑な生体を数値で表現するが、患者が訴える自覚症状や他覚症状との相関関係をこのデータマイニングの情報で面白く表現する可能性も見えてきたように感じている。とにかく漢方を数字の方程式に落と

し込めたのは人類史上初めて。感動している。余談だが、次世代スーパーコンピュータが、半年遅れで神戸において実現する。全国にすでにある20台とのネットワーク化を計画。オールジャパンの計算資源へとコンプトを大幅変更した。

◆薬としての均一化が課題となる生薬栽培
木内 生薬については、価格や国産生薬の重要性など、課題が浮き彫りになってきている。野生品と栽培品では成分に差が出てくるので、薬としての品質の均一化という側面から見ても課題が大きい。将来的にはどのような成分パターンがいいのかデータをとり、品種改良をしていく。

◆国家試験への出題は重要、関心を促す
黒岩 漢方の医師国家資格化をどう考えるか。鈴木 医学生の漢方への関心は二極化している。これからは漢方を医師国家試験に入れることで、医学生だけでなく、ドクターにも関心を促すことができるかと考えている。

◆西洋医学にも個別的医療はある。漢方は大賛成
土屋 により患者さんの声に耳を傾けるのが大事。欧米ではいかに副作用

を少なくして抗がん剤を完遂させるかに焦点をあてている。日本は西洋の学問を輸入することばかり考え、ベッドサイドの患者さんの悩みに気づいて新しい投与を行う姿勢が恐ろしく欠けている。

◆個別化治療は西洋医学にないわけではない。日本は西洋化を急ぐあまり、忘れてしまったのではないだろうか。西洋医学をベースに漢方を取り入れるのは大賛成だ。

◆漢方の哲学が必要
梅村 漢方薬を使うかわからないかが問題ではなく、漢方的哲学が今の医療に欠けていると感じている。国家戦略をビジョンに政治家として取り組むべきと感じた。

◆国家試験への出題は重要、関心を促す
黒岩 漢方の医師国家資格化をどう考えるか。鈴木 医学生の漢方への関心は二極化している。これからは漢方を医師国家試験に入れることで、医学生だけでなく、ドクターにも関心を促すことができるかと考えている。

◆司会 黒岩祐治(シヤナリスト) ◆パネリスト 鈴木寛(文部科学副大臣)、井元清哉(東大医科学研)、木内文之(慶大薬)、渡辺賢治(慶大医)、バックレイ麻知子(患者)、土屋一介(国立がんセンター中央病院、会場よりコメント)、梅村聡(参議院議員、特別ゲスト) ※所属は会当日

◆漢方の哲学が必要
梅村 漢方薬を使うかわからないかが問題ではなく、漢方的哲学が今の医療に欠けていると感じている。国家戦略をビジョンに政治家として取り組むべきと感じた。

◆国家試験への出題は重要、関心を促す
黒岩 漢方の医師国家資格化をどう考えるか。鈴木 医学生の漢方への関心は二極化している。これからは漢方を医師国家試験に入れることで、医学生だけでなく、ドクターにも関心を促すことができるかと考えている。

◆西洋医学にも個別的医療はある。漢方は大賛成
土屋 により患者さんの声に耳を傾けるのが大事。欧米ではいかに副作用